

風しん・先天性風しん症候群

全数報告開始以降の風しん患者報告数の推移

— 感染症発生動向調査より(2008年～2014年第23週) —

風しん患者報告数(人)



流行のピークは5月でした。

図4 男女別年齢別予防接種歴別風しん累積報告数(上段男性、下段女性)

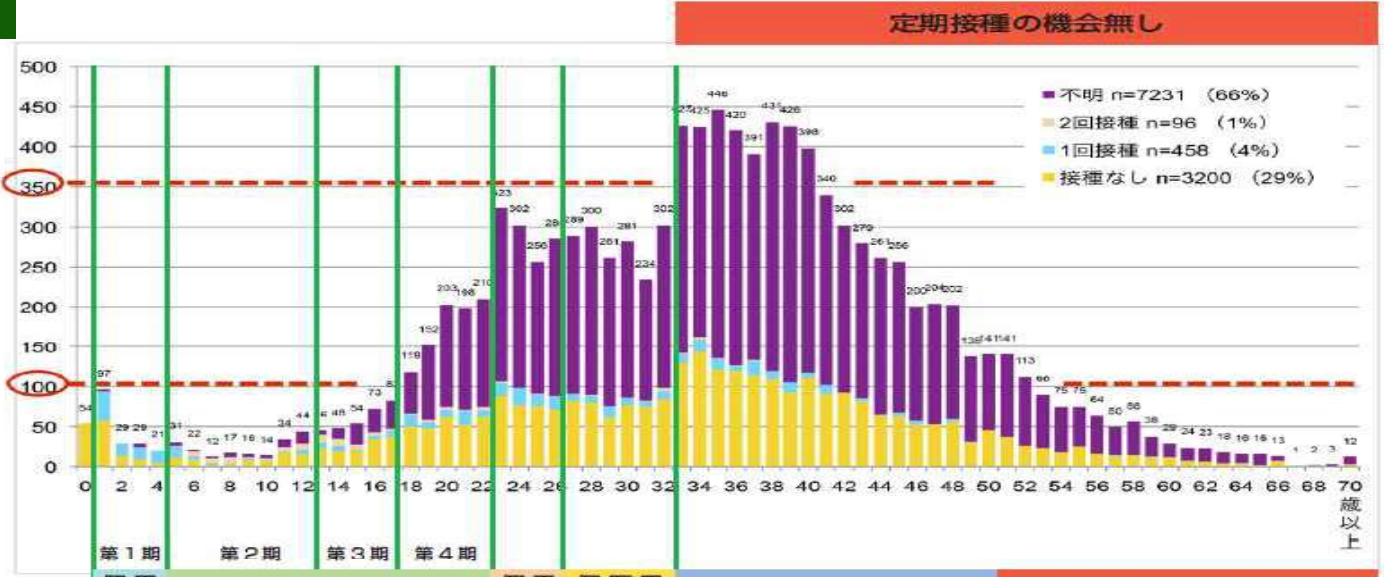
※ 年齢別の報告症例数を100人と350人で便宜的に区分して示す

(感染症発生動向調査：平成26年1月7日現在)

2013年1年間

報告数

男性
(n=10,985)



個別接種・1回
男女とも1歳で

男女とも
個別接種：2回

個別接種・1回
男女幼児に

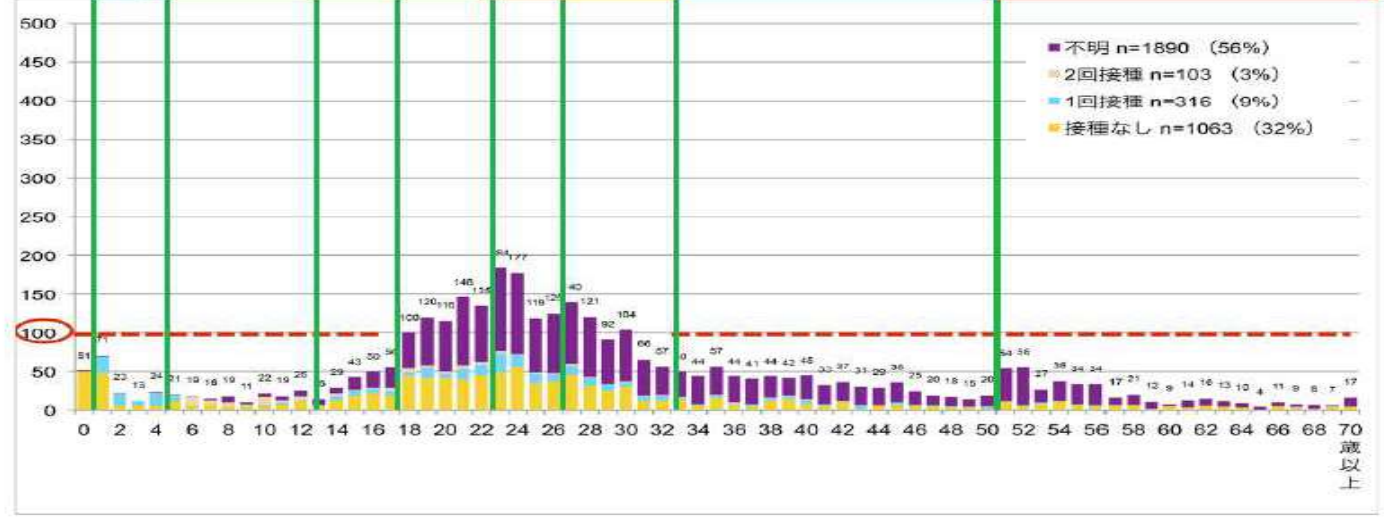
医療機関で
個別接種・1回
男女中学生に

女性のみ中学校で
集団接種：1回

定期接種の機会無し

報告数

女性
(n=3,372)



合併症（感染症発生動向調査より）

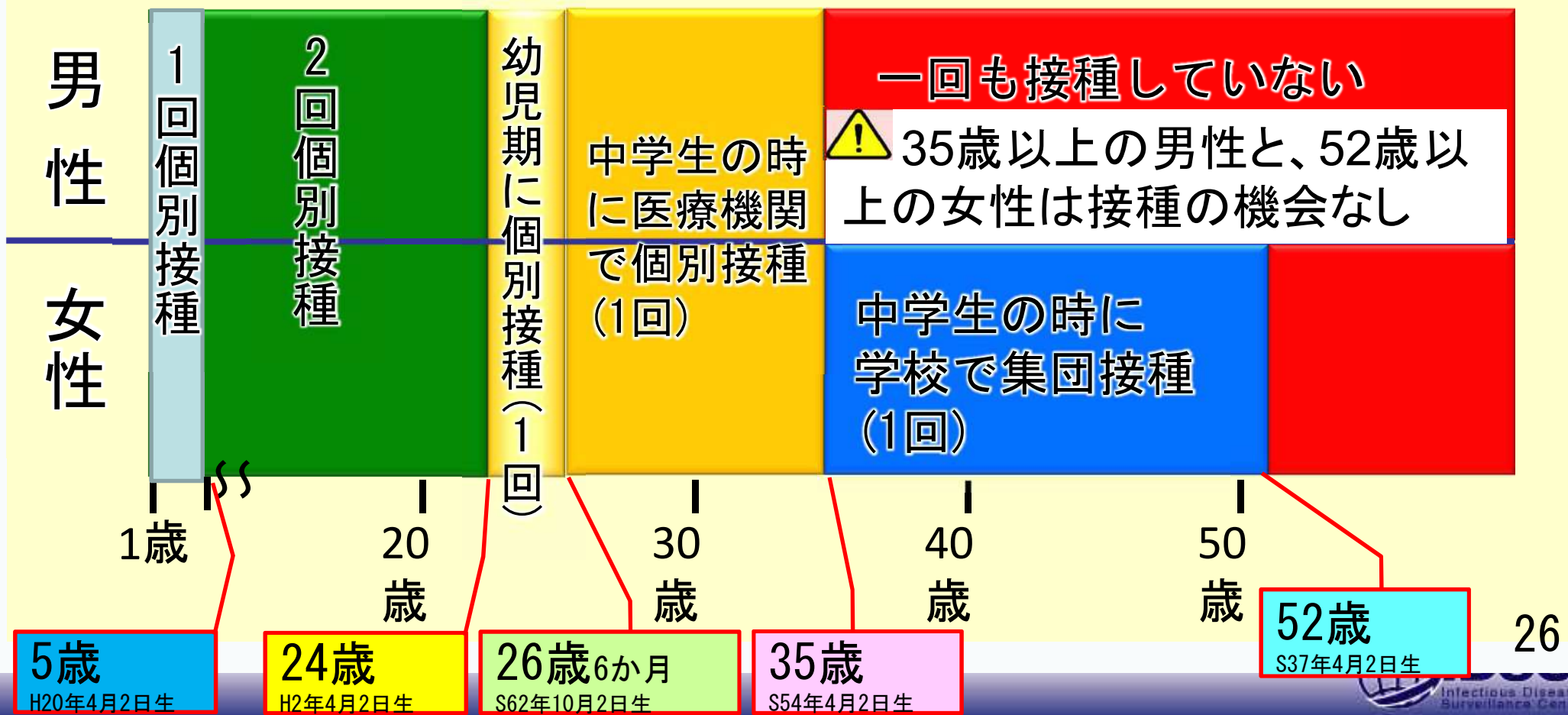
- 風しん**脳炎**： 2012年5人
2013年13人
- 血小板減少性**紫斑病**：
2012年13人
2013年64人



なぜ成人男性で流行したか？

平成26年4月1日時点の年齢

これまでの風しんワクチンの接種状況



5歳
H20年4月2日生

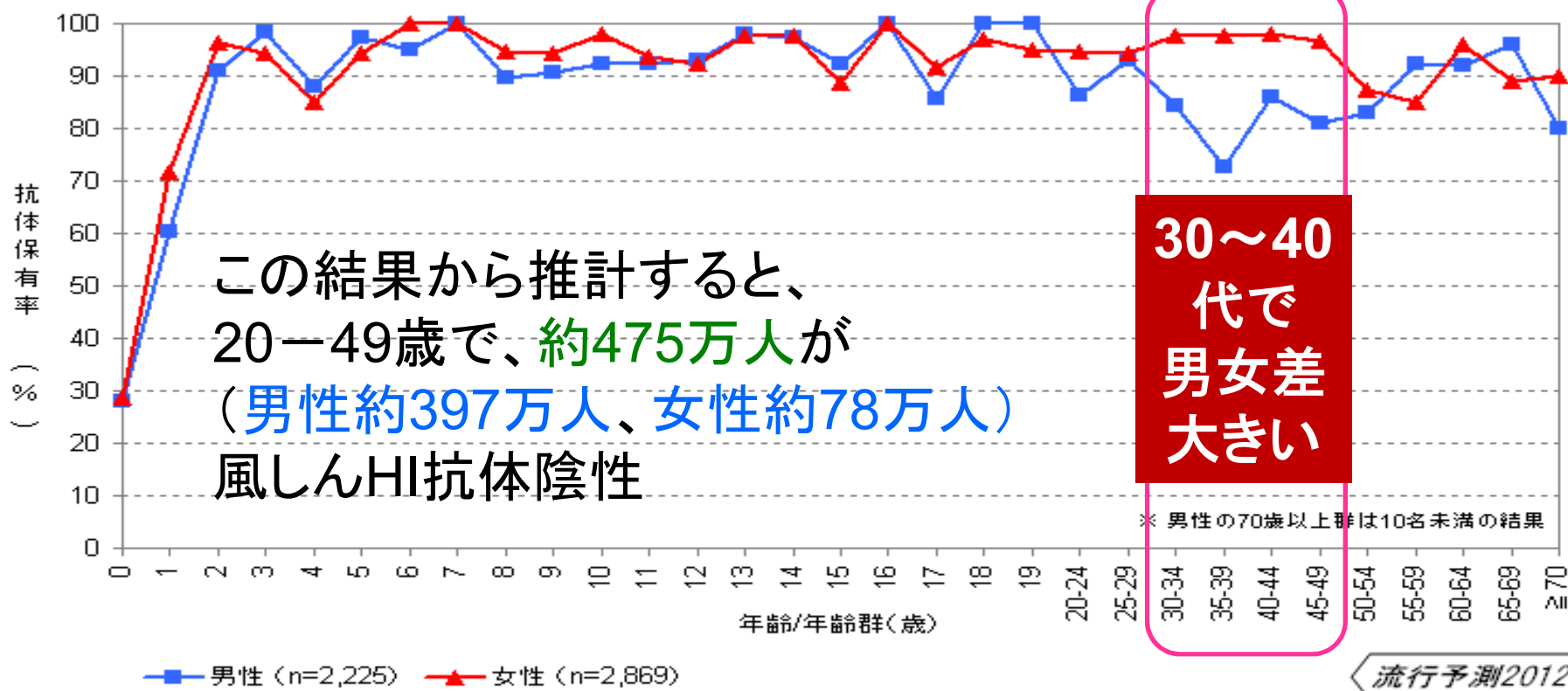
24歳
H2年4月2日生

26歳6か月
S62年10月2日生

35歳
S54年4月2日生

52歳
S37年4月2日生

図2. 年齢/年齢群別の風疹HI抗体保有状況(抗体価1:8以上) - 2012年度感染症流行予測調査より
(2013年3月5日現在)



IASR

Infectious Agents Surveillance Report

【2012年度風疹感受性調査実施都道府県】

宮城県, 山形県, 栃木県, 群馬県, 千葉県, 東京都, 新潟県, 長野県, 愛知県, 三重県, 京都府, 山口県, 高知県, 福岡県

年齢/年齢群 状況, 2006年^{※1}
～ 2006年度 調査より～

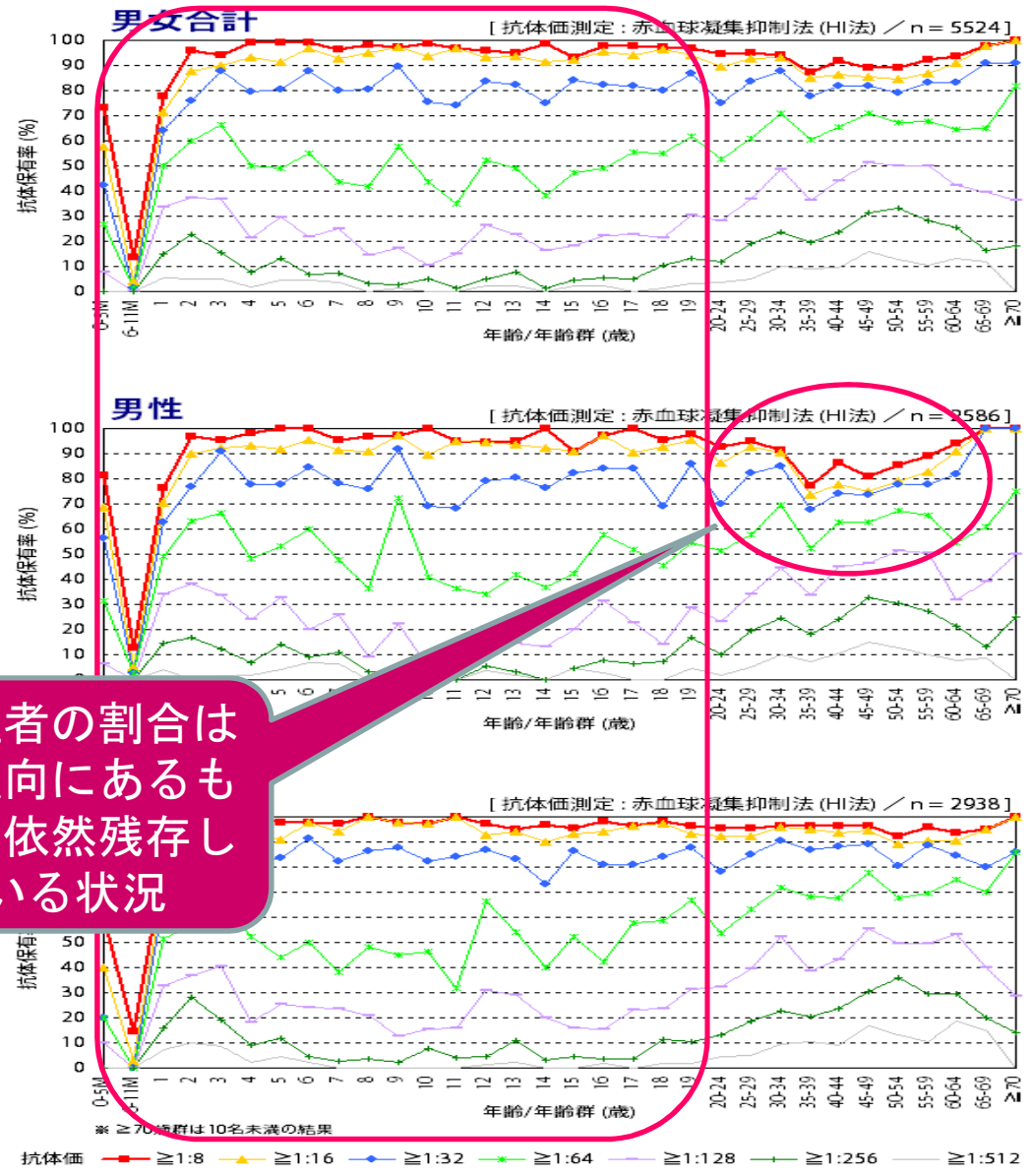
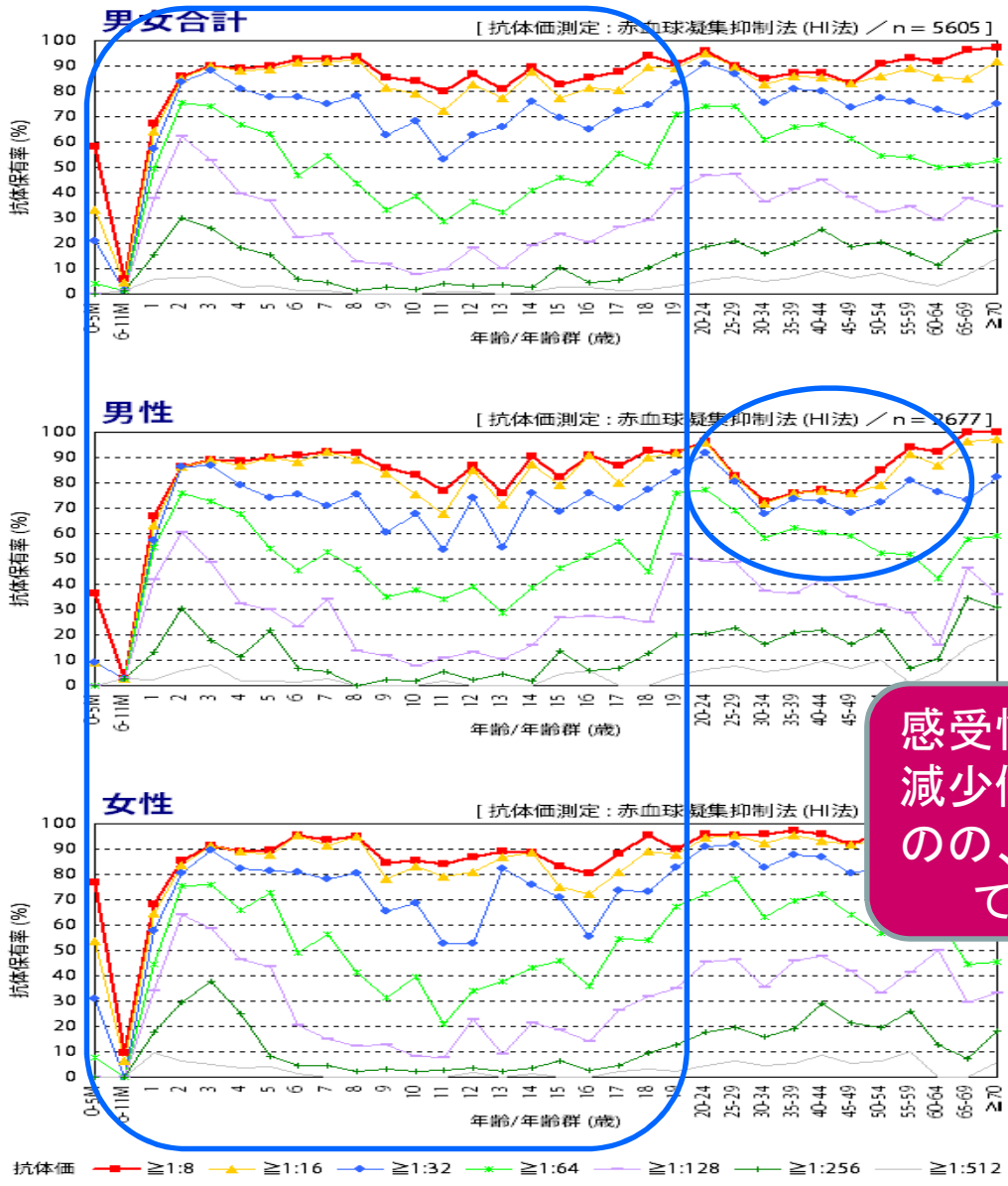
※1 主に2006年7～9月に採取された血清の測定結果

2006年度

年齢/年齢群 状況, 2013年^{※1}
～ 2013年度 調査より～

※1 主に2013年7～9月に採取された血清の測定結果 (2014年3月現在暫定値)

2013年度



感受性者の割合は減少傾向にあるものの、依然残存している状況

流行予測2006

流行予測2013

【2006年度風疹感受性調査実施都道府県】
宮城県, 山形県, 栃木県, 群馬県, 千葉県, 東京都, 新潟県, 福井県, 山梨県, 長野県, 愛知県, 三重県, 山口県, 高知県, 福岡県, 沖縄県

【2013年度風疹感受性調査実施都道府県】
宮城県, 栃木県, 群馬県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 愛知県, 三重県, 京都府, 山口県, 高知県, 福岡県, 佐賀県, 沖縄県

感染原因・感染経路（重複あり）

2013年1月～12月28日に感染症発生動向調査に報告された
20～60歳の男性風しん患者（9,862例）中、
感染原因・感染経路に記載があった1,761例で、

・職場関連：1,207例（68.5%）

- 同僚からの感染：484例（40.1%）
- 職場で風しん患者と接触：237例（19.6%）
- 職場で流行があったのが127例（10.5%）

感染原因・感染経路（重複あり）

2013年1月～12月28日に感染症発生動向調査に報告された

20～60歳の女性風しん患者（2,515例）中、妊婦が25例（1.0%）であった
感染原因・感染経路に記載があった588例で、

・ 職場関連：207例（35.2%）

- 同僚からの感染：71例（34.3%）

- 職場で風しん患者と接触：37例（17.9%）

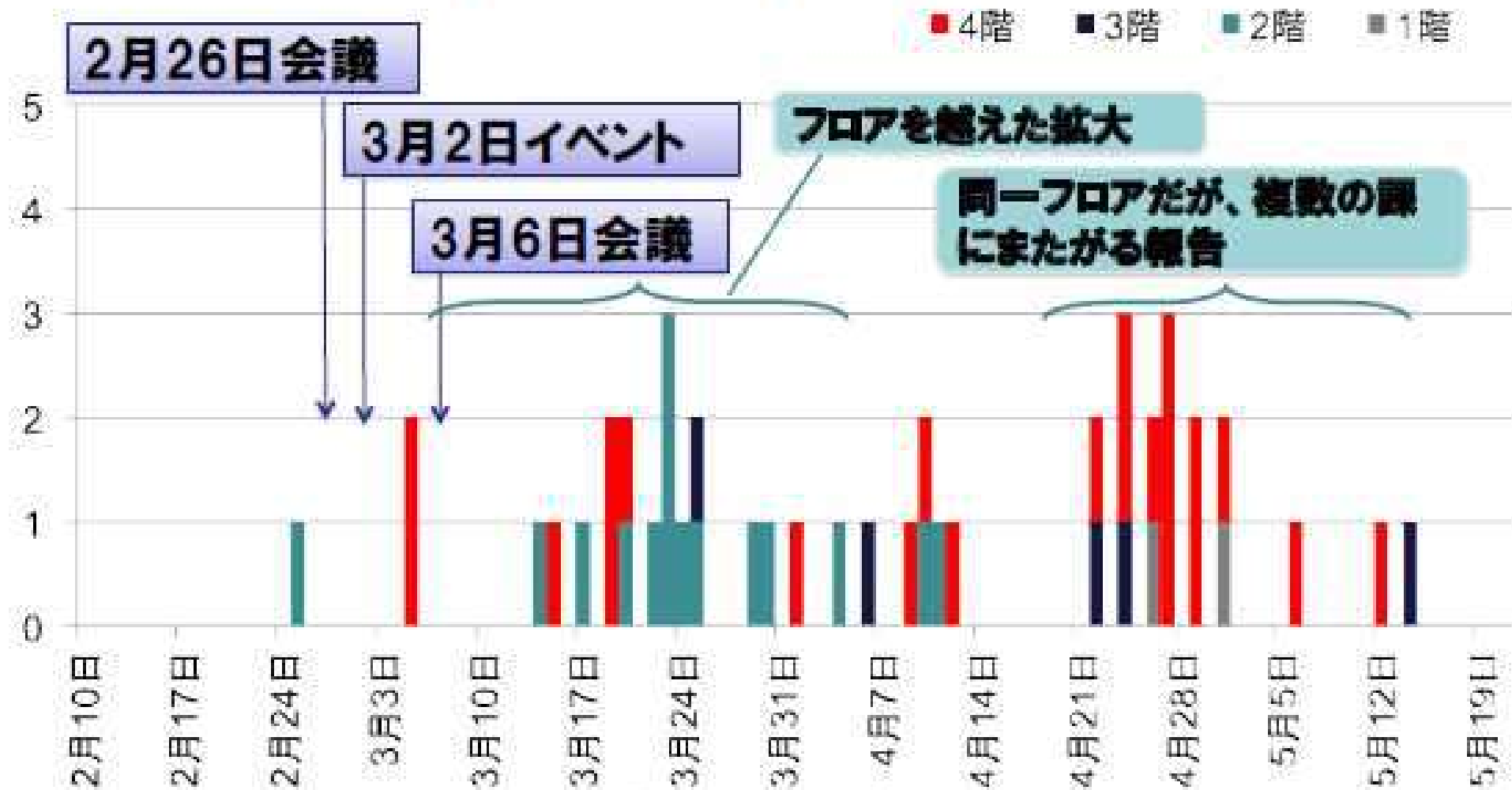
- 職場で流行があったのが24例（11.6%）

・ 家族：197例（33.5%）

- 夫：87例（44.2%）

- 子ども：55例（27.9%）

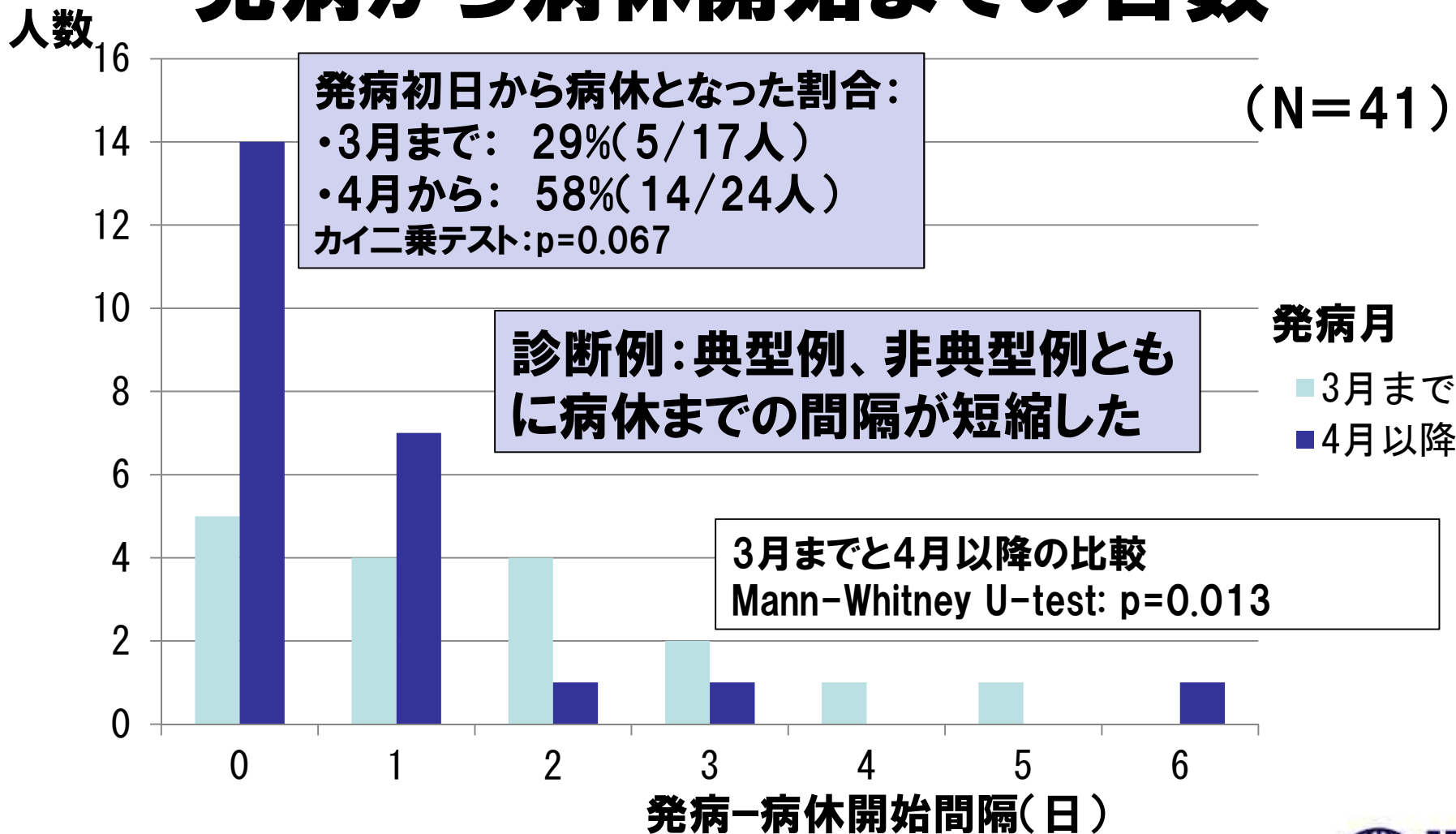
B事業所疑い例発病日(N=44)



11週間にわたる流行

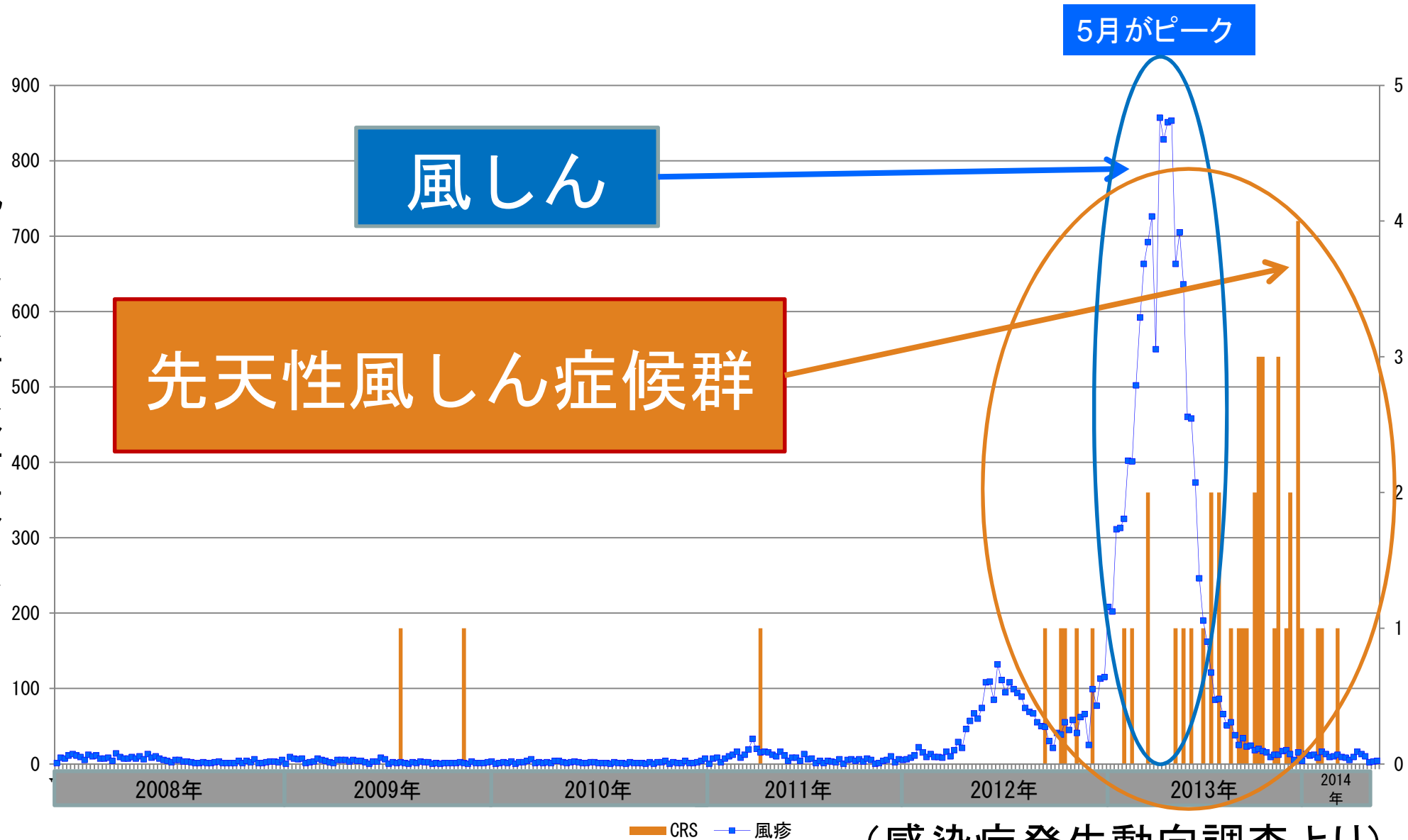
職場における風しん対策ガイドライン、風しんに関する小委員会資料より

B事業所風しん症例の 発病から病休開始までの日数



風しん・先天性風しん症候群の報告数(2008～2014年第23週)

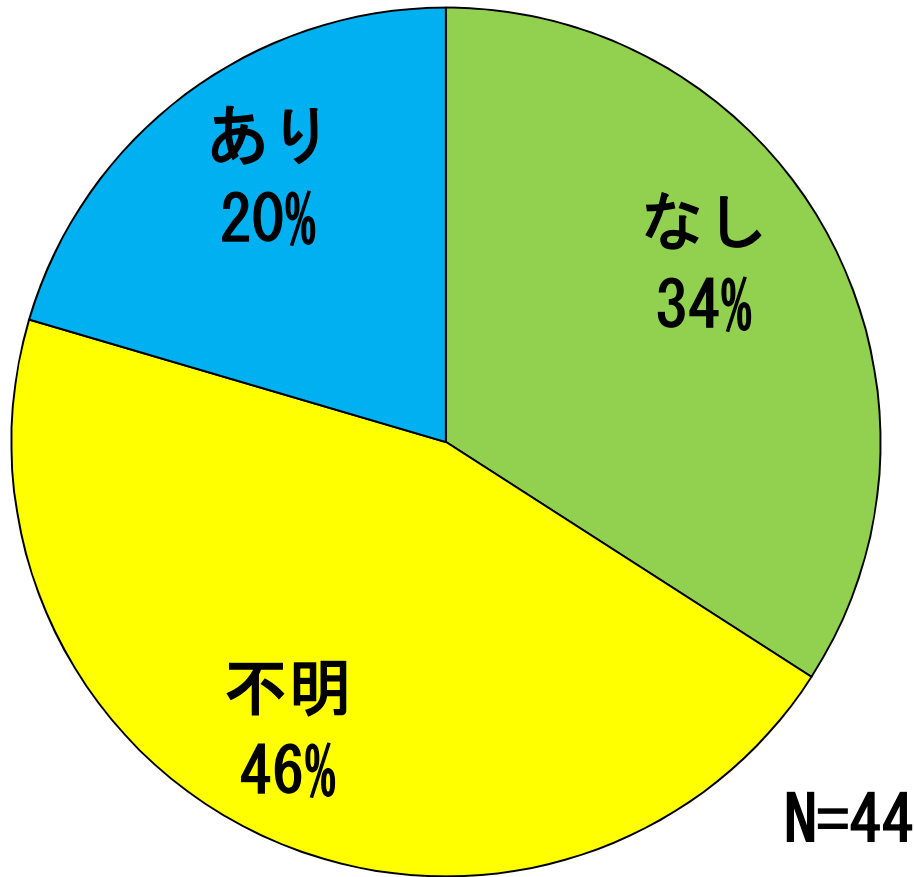
風しん患者報告数(人)



先天性風しん症候群患者報告数(人)

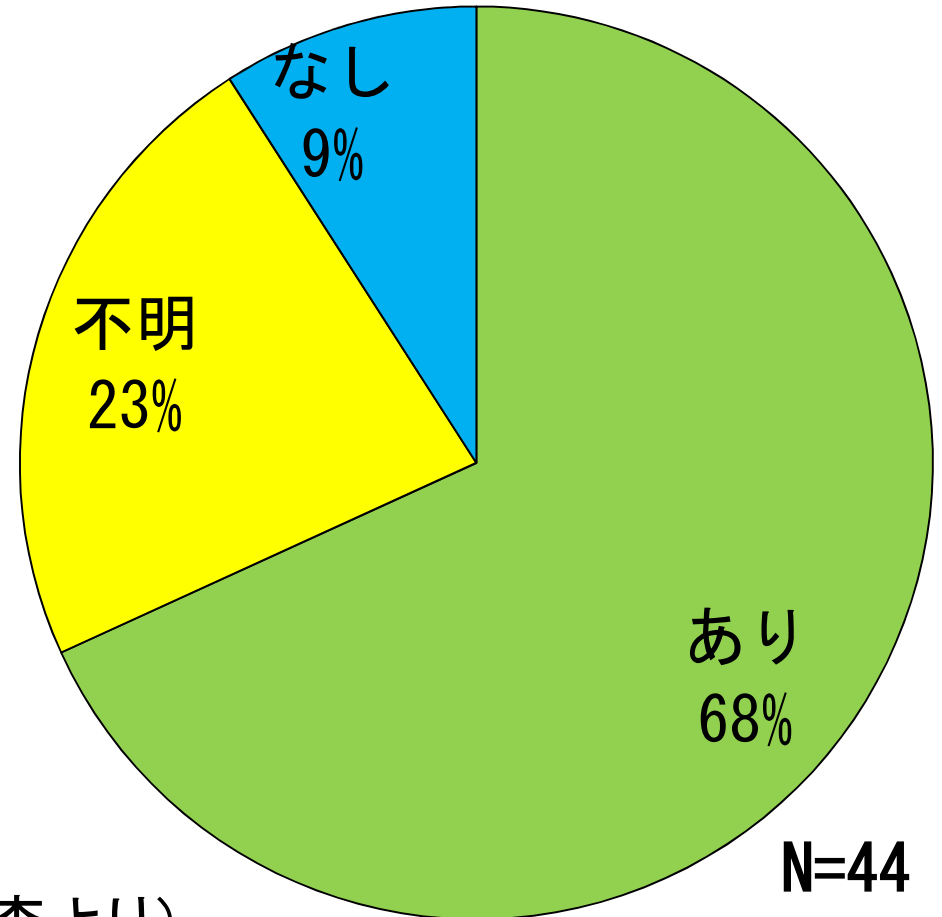
(感染症発生動向調査より)

母親の 風しん含有ワクチン接種歴



(感染症発生動向調査より)

母親の妊娠中の 風しん罹患歴



母親の風しん含有ワクチン接種時期と種類

年	ワクチンの種類
平成元年	MMR
平成3年	MMR
平成4年	MMR
平成10年	風しん単抗原
平成12年	風しん単抗原
13歳	風しん単抗原
平成19年	風しん単抗原
平成21年	種類不明
不明	種類不明

(感染症発生動向調査より)

1回のみ風しん含有ワクチン接種歴のある人の風しんHI抗体保有状況

年齢群 (歳) AGE GROUP (YEARS)	合計 TOTAL	HI抗体価 HI ANTIBODY TITER										
		<8	8	16	32	64	128	256	512	1024-	G.M. (Lod2)	
有1回 VACCINEE [1 DOSE]		4.97%陰性										
TOTAL	1771	88	58	168	360	453	374	186	57	27	68.3	6.1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
1	116	15	1	3	13	20	32	23	6	3	116.3	6.9
2-3	223	6	7	23	30	57	58	32	6	4	77.3	6.3
4-6	168	9	4	18	46	50	32	7	2	0	53.3	5.7
7-9	91	3	6	12	17	21	25	5	2	0	55.5	5.8
10-14	327	12	12	40	84	85	55	25	14	0	57.0	5.8
15-19	231	12	12	36	64	55	30	18	4	0	47.5	5.6
20-24	134	6	5	9	30	46	23	9	1	5	64.3	6.0
25-29	113	5	2	4	23	28	31	15	2	3	83.8	6.4
30-34	109	6	1	4	13	35	29	13	5	3	94.6	6.6
35-39	92	4	2	3	19	27	20	13	3	1	79.8	6.3
40-	167	10	6	16	21	29	39	26	12	8	95.2	6.6

2010年度感染症流行予測調査事業より

2回以上風しん含有ワクチン接種歴のある人の風しんHI抗体保有状況

年齢群 (歳) AGE GROUP (YEARS)	合計 TOTAL	HI抗体価 HI ANTIBODY TITER											
		<8	8	16	32	64	128	256	512	1024-	G.M. (Log2)	G.M. (Log2)	
有 2回以上 VACCINEE [≥2 DOSES]													
TOTAL	528	5	13	51	126	144	121	48	16	4	65.2	6.0	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	
1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	8.0	3.0	
2-3	16	0	0	2	1	2	7	3	1	0	103.1	6.7	
4-6	79	0	2	5	16	23	19	8	5	1	77.6	6.3	
7-9	152	1	5	11	41	44	38	8	4	0	60.6	5.9	
10-14	126	1	3	16	28	38	24	12	3	1	61.2	5.9	
15-19	96	2	1	15	30	21	19	7	1	0	52.4	5.7	
20-24	20	0	0	1	3	5	6	4	0	1	100.4	6.6	
25-29	12	0	0	0	1	4	4	2	0	1	120.8	6.9	
30-34	9	1	0	1	2	3	0	1	1	0	69.8	6.1	
35-39	8	0	0	0	1	2	2	2	1	0	128.0	7.0	
40-	9	0	1	0	3	2	2	1	0	0	54.9	5.8	

0.95%陰性

風しん・先天性風しん症候群を予防するために ～予防接種を奨める対象～

①定期接種対象児

(1回目：1歳児、2回目：小学校入学前1年間)

②妊婦の周辺

(妊婦の配偶者、子ども、職場の同僚、友人)

③20代～40代で妊娠を希望する女性

(妊娠前に接種が必要)

④妊婦健診で風疹のHI抗体価が16以下で低かった女性

(出産後～1か月健診までに)

⑤職業上のリスクがある人

(医療・保育・学校関係の職業)

麻しん風しん混合ワクチン(MR)を原則に

2012年～2013年にかけて、風しんが成人で流行しました 44人の先天性風しん症候群が報告されました



早期に先天性風しん症候群の発症をなくし、2020年度までに風しんを排除することが指針の目標となっています。

定期接種対象年齢になったら、すぐのMRワクチン接種を徹底・維持することが対策の基本となります。

さらに、再び国内で風しんの流行を起こさないようにするために、
小児のみならず、免疫のない成人も予防接種を受けることが重要です。

風しんに関するガイドライン

- ・ **職場における風しん対策ガイドライン**（2014年3月）
 - <http://www.nih.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/kannrenn/syokuba-taisaku.pdf>
- ・ **医療機関における風しん対策ガイドライン**（2014年3月、同年4月3日一部改訂）
 - <http://www.nih.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/kannrenn/iryoukikann-taisaku.pdf>
- ・ **風しん・先天性風しん症候群届出ガイドライン**（作成中）
- ・ **風しん発生時対応ガイドライン**（作成中）
- ・ **都道府県における麻疹風しん対策会議等に関するガイドライン**（旧「都道府県における麻疹対策会議等に関するガイドライン」より改訂）（作成中）

風しん対策に関する資料等

- ・ 風疹流行および先天性風疹症候群の発生に関するリスクアセスメント (2013年7月16日)
- ・ 風疹流行および先天性風疹症候群の発生に関するリスクアセスメント第二版 (2013年9月30日)
 - <http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/2145-rubella-related/3980-rubella-ra-2.html>
- ・ 先天性風疹症候群に関するQ&A (2013年9月)
 - <http://www.nih.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/2145-rubella-related/3982-crsqa.html>
- ・ 風しん抗体価の換算 (読み替え) に関する検討 (2013年9月)
 - http://www.nih.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/RubellaHI-EIAtiter_Ver2.pdf

皆様からの貴重な情報をもとに、本日の資料を作成しています。

この場を借りて、御礼申し上げます。



国立感染症研究所 感染症疫学センター

センター長： 大石和徳

・ 第1室（感染症対策計画室）

- 松井珠乃、重松美加、大日康史、菅原民枝、八幡裕一郎、山岸拓也、神谷 元、島田智恵

・ 第2室（感染症情報室）

- 砂川富正、齋藤剛仁、椎野禎一郎、加納和彦、木下一美、高橋琢理、有馬雄三

・ 第3室（予防接種室）

- 多屋馨子、新井 智、佐藤 弘、奥野英雄

・ 第4室（病原診断室）

- 藤本嗣人、花岡 希

・ 第5室（細菌研修室）

- 石岡大成

・ 第6室（ウイルス研修室）

- 木村博一



ご清聴
ありがとうございました